

編集後記

▼今回は「タイ法式による得度式」を特集いたしました。

日本では異例にしてはじめての上座得度式として、各方面から注目されましたが、これは留学僧を受け入れてくださつておられるタイ・ワット・パクナムのプラ・タム・パンヤー・ボディ師の強い要望があつて実現したことでした。タイ仏教の息吹きを、是非日本にもさわやかな風として紹介したいという尊師の願いは、こうして実を結んだわけですが、これはとりもなおさず日本の仏教界全体への願いでもあります。

プライベートな儀式としての行持ではありましたが、今後更に各国の

仏教とのひたむきな交流がすすめられるためのいしづえとなるであろうと思います。

▼来年は、開創満二十周年に正当し

ます。これを記念する各種の事業が計画され、只今進展中であります。檀徒の皆様方の御協賛を仰ぎ、心からなる淨財の御喜捨をお願いいたしております。何とぞ御協力のほどお願い申し上げます。

▼今年もまた梅雨の季節が巡つてしまりました。降り続く雨に、心も体もふさがれたようなうつとうしい思いに閉ざされるのかと思うと、重苦しい気分になりますが、お釈迦さまが考えられた「雨安居」ということを思い出してみてはいかがでしょうか。インドの雨期は日本の梅雨のよ

うなしひとりとした風情とは程遠いすさまじいものですが、この時期に外出を禁じ、勉学と仏法精進のための修行期間を設けられました。

私たちもまた、内省のいい折を与えられたと感謝して、しみじみと梅雨とつきあいたいと思います。

▼夏の日盛りに赤い花をつける丈高い草を、「お盆花」と呼んだ記憶がありますが、お盆飾りの仏壇に毎年生けられる花でした。年に一度帰つていらつしやるご先祖を、今年はどんな花で迎えましょうか。（小熊）

成寿 第十号

昭和六三年六月二十五日発行

発行所 成寿山善光寺

横浜市港南区日野町一六〇四

電話 ○四五（八四五）一三七一

印刷所

神奈川新聞社出版局

妙音かんのん



合掌し
ただに祈る
何も求めず
見上ぐれば微笑し給う
あろかにも祈り「トバ知りや
ひたすらに
大いなる胸に抱かるを願つ
妙音觀世音
人と生れて
み姿を拝むよのひび
妙なるみ声
流れ来たりて
今
会いたてしまつる



模演善光寺